令和３年度入学式式辞

校長　澤山 陽一

伊予の広野に波打つ麦のみどり、道沿いの花壇で揺れる色とりどりのチューリップ、そして、皆さんを出迎えるためにいつもより早く色づき始めた校庭の藤の花。まさに、春爛漫の今日、お忙しい中お越しいただいた御来賓の御臨席、多数の保護者の皆様の御出席を得て、令和３年度　愛媛県立伊予農業高等学校の入学式を挙行できますことは、生徒並びに教職員一同の大きな喜びであり、心より厚くお礼を申し上げます。

ただ今、入学を許可しました 163 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。希望に満ち溢れた新入生の皆さんをここ伊予農に迎え、同じ空間にいられることを、私は校長として本当にうれしく思っています。そして、皆さんとともに過ごす三年間が、楽しく充実した日々であることを願ってやみません。

ところで、皆さんの好きな食べ物は何ですか。私は母の作ったコロッケが大好きでした。特別なじゃがいもを使ったわけでも、秘伝の味付けがあるわけでもないのに、大人になって食べたどんなコロッケより、母のコロッケが一番おいしいと思ったものです。皆さんにもきっと、お父さんの作ったカレー、おばあちゃんの作った豚汁など、お気に入りの「おふくろの味」があるはずです。では、私たちはなぜいわゆる「おふくろの味」をおいしいと感じるのでしょうか。

ここで、2012 年に行われた一つの実験を紹介したいと思います。それは、大学生にお菓子を食べてそのおいしさを５点満点で評価してもらうという実験でした。ただし、そこには仕掛けがあって、半分の学生には「どれでもいいやと思って適当に選びました。」というメッセージ付きのお菓子を、残り半分の学生には「あなたのために選びました。喜んでもらえるとうれしいです。」というメッセージを添えたお菓子を食べてもらったのです。さて、どんな結果が出たと思いますか。

実は、同じお菓子を食べたはずなのに、「あなたのために選んだ。喜んでもらうと嬉しい。」のメッセージを添えたお菓子の方が「どれでもいいやと思って選んだ。」というお菓子の評価の平均点より、おいしさの点数がかなり高かったのです。つまり、全く同じお菓子を食べたにも拘わらず、「選んだ人の親切・優しい気持ち」が感じられる方が、おいしいと評価されたというわけです。「おふくろの味」は、それを作ってくれた人の愛情や優しい心を私たちが感じるからこそおいしいのです。つまり、味覚は舌だけではなく、心で味わっているということができるのではないでしょうか。

本年度、本校は愛媛県教育委員会の指定を受けて、一年間を通して「心の教育」に力を入れる予定になっています。新入生の皆さんには、ぜひ、先ほどの実験のメッセージのように、相手に対する優しさや相手を思いやる心を意識して高校生活を過ごしてほしいと思っています。

今、本校の玄関前には、ブラジルの国の花であるイペーの木が花を付け始めています。今から60年前に本校の海外事情部の顧問をされていた武智利博先生から寄贈されたこの木は、下から見上げると青空をバックにその黄色い花の美しさが一層引き立ちます。そして、この花の花言葉は、「豊かな愛情」なのです。私たち教職員は、皆さん一人ひとりの黄色いイペーの花が引き立つように、青い空となり「豊かな愛情」を持って、みなさんを応援していきます。３年後の卒業式に笑顔で旅立てるよう、私たちと共に歩んで行きましょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。

お子様は、これから高校生活を通じて自立の道を歩むことになりますが、伊予農業高校を卒業するときには、故郷に貢献できる健康な体と健全な精神を身に付け、自信にあふれ光り輝くたくましい若者となれるよう、私たち教職員は心を込めてお子様と向き合っていきたいと思っております。

ここに改めて、本校の教育活動に対する御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げ、式辞といたします。